

# 窓

みなさんの活躍  
紹介します

41年ぶりの快挙  
消防庁長官賞を受賞した  
《稲穂少年少女消防クラブ》の伝統

## 大変なときも 続けることが大切



《稲穂少年少女消防クラブ》の皆さん  
写真左上から指導者の門馬 将太代表、山崎 誠介副代表。左下から会員の門馬 栄守さん、西田 航さん。

《稲穂少年少女消防クラブ》が令和元年度の「優良な少年消防クラブ（消防庁長官賞）」を受賞しました。

少年消防クラブは、小学生から高校生までの少年少女が防火や防災を学ぶ組織です。全国4442クラブの中から「特に優良な少年消防クラブ」28クラブに次ぎ、「優良な少年消防クラブ」40クラブのひとつに選ばれました。平成9年4月に設立され、現在は68人の会員がいる同クラブの指導者を務める門馬将太さんと山崎誠介さんにお話を聞きました。

「ここまで消防クラブの活動に力を入れているのは、平成27年に亡くなられた先代の指導者代表だった故・久保光義さんの言葉があるからです。

久保さんは、長年、稲穂少年消防クラブの活動に尽力されました。亡くなる1か月前、お見舞いに行ったときに久保さんから「俺の後の消防クラブを頼むな。大変なときがあるかもしれないが続けることが大切」と伝えられたことが、私たちの原動力となっています。

活動を続けるためのモットーは、ありきたりですが、「明るく、楽しく、仲良く」です。子どもたちが「やって楽しいと思えるか、来て良かったと思えるか」を意識しながら事業を企画しています。昨年の10月に当クラブの単独事業として初めて《そなえーる》で防災キャンプをしました。心肺蘇生やAEDの使い方、段ボールベッドの作り方など難しいプログラムでしたが、子どもたちが最後まで真剣に話を聞く姿が印象的でした。活動の中心は小学生ですが、卒業した中学生がイベントの手伝いに戻ってきてくれたときは嬉しかったですよ。

将来、その子たちが指導者としてクラブに戻ってきて、《稲穂少年少女消防クラブ》の伝統を受け継いで欲しいですね。それまでは、先代がつないできた《活動の火》を消さないようにしたいです。」

### 第10回



文京1丁目町内会  
ホームページ



町内会連合会  
ホームページ

8月22日開催の《町内会活性化セミナー》では、アンケート結果をもとに情報発信の重要性についても話し合いました。閲覧板についての設問では、回答した町内会の81%が「閲覧板を回している」と回答していましたが、そのうち63%が「特に新型コロナウイルス感染症の対策を行っていない」とのことでした。

アフターコロナでも情報が大変なことは変わりなく、よりいっそう重要になっていきます。セミナーの講師からは、閲覧板以外にもSNSやホームページなど、さまざまな方法を用いて発信していくことが必要との話があり、これからは、それぞれの町内会の状況にあった情報伝達手段の選択が求められます。

千歳市町内会連合会では、各町内会が簡単かつ効果的に情報発信できるよう、町内会独自のホームページの作成を支援しており、最近では、この支援を利用して《文京1丁目町内会》がホームページを開設しました。ホームページの作成は、専門業者がわかりやすく丁寧に教えてくれるほか、更新などの運用も簡単にできますので、ぜひご活用ください。



## アフターコロナの 情報発信の重要性

